

「平和の大切さ」

糸魚川中学校 2年 荻野 唯

私は、終戦 80 年の今年、糸魚川市中学生広島派遣研修に参加してきました。その中で、平和記念式典へ参列し、被爆体験講話や平和記念資料館で実際見たことや聞いたことがとても印象に残っています。

平和記念式典では、原爆で亡くなられた方の霊を慰めることで、世界平和に対する想いの大切さを感じました。式典には想像以上に多くの方が参列していました。子どもからお年寄りまでの幅広い世代の方、そして日本人だけでなく外国人も多くいました。世界全体が戦争や平和について学ぼうとしていたことを知り、とても感動しました。

被爆体験講話では、佐伯さんご夫婦から貴重なお話を聞かせていただきました。佐伯さんのおばあさんは原爆投下された近くで被爆し亡くなられたそうです。また、被爆により皮膚が焼け爛れた人たちが、爆心地から逃げてくる凄まじい様子を佐伯さんは語ってくださいました。80 年前の出来事であったとしても、とても現実で起きたこととは思えませんでした。奥様は、お腹にいるときに被爆したそうです。爆心地から半径 2 キロ以内の場所での被爆にもかかわらず、なんとか逃げ、助かったそうです。しかし、生き延びたとしても、大切な人を失い、悲しい生活をしなければならなかった人や、被爆による後遺症や差別に苦しむ人が多くいたこと、そしてその人たちは今も苦しんでいることを教えてくださいました。思い出すだけでも辛いことだったにもかかわらず、当時のことを詳し

く話してくださったということは、この悲劇は絶対に忘れ去ってはいけないものだと思えました。

平和記念資料館では、戦争の恐ろしさを自分の目で確かめることができました。原爆により一瞬で破壊した町の様子、全身に火傷を負った人々、被爆の後遺症で苦しむ人々など、悲惨な現状の写真や物、被害に遭った人たちの言葉や思いなどが展示されていました。どれも、見ているだけで心を抉られるような感覚でした。その中で私が最も心に残ったのは、「魂の叫び」のコーナーです。苦しみながら死んでいった人々の無念と、遺族の深い悲しみが、遺品とそれにまつわるエピソードと共に紹介されていました。原爆投下という予想もしていなかった現実が、一瞬にして人々の日常を奪ってしまったことを改めて実感し、強い衝撃を受けました。

3日という短い期間でしたが、この広島で学んだことは一生忘れられないほど深く心に残りました。しかし、学んだだけでは平和は実現されません。なので今回学んだ「平和の大切さ」を、まずは身近な人に正しく伝えていきたいと思えます。
